

第 1 期

運用報告書(全体版)

次世代AI株式戦略ファンド

【2025年11月10日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「次世代AI株式戦略ファンド」は、2025年11月10日に第1期決算を迎えましたので、設定以来の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

SBI 岡三アセットマネジメント

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1
ホームページ <https://www.sbiokasan-am.co.jp>

- 口座残高など、お客さまのお取引内容についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ
03-3516-1300（受付時間：営業日の9:00～17:00）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2025年6月9日から2045年11月9日までです。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の取引所に上場している次世代AI関連企業の株式（これに準ずるものを含みます。）に投資し、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	当ファンド	アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）およびマネー・リクイディティ・マザーファンドを主要投資対象とします。
	アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）	アクサ IM 次世代AI関連株式マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の取引所に上場している次世代AI関連企業の株式（預託証券（DR）を含みます。）を主要投資対象とします。
	マネー・リクイディティ・マザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
主な投資制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。外貨建資産への直接投資は行いません。	
分配方針	年2回、5月および11月の各月の9日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マネー・リクイディティ・マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。分配金額は、分配対象収益の範囲内で、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。委託会社の判断により、収益分配を行わないことがあります。	

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み) (円換算後)		債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率	(参考指数)	期 騰 落 中 率			
(設定日)	円	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
2025年6月9日	10,000	—	—	302,998.3614	—	—	—	7,702
1期(2025年11月10日)	12,125	0	21.3	360,034.4196	18.8	0.1	98.1	56,662

(注) 基準価額および分配金(税引前)は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込み。
(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。
(注) MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み)〔円換算後〕は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み)〔円換算後〕は、当該日前営業日の現地終値に為替レート(対顧客電信売買相場の当日(東京)の仲値)を乗じて当社が算出しております。(以下同じ。)
(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

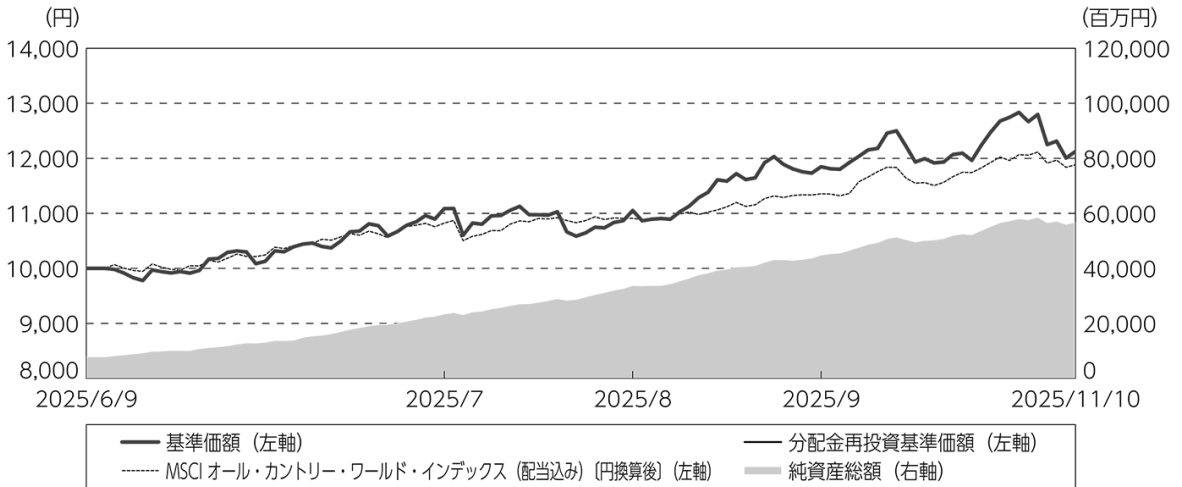
年 月 日	基 準 価 額		MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み) (円換算後)		債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(設定日)	円	%	ポイント	%	%	%
2025年6月9日	10,000	—	302,998.3614	—	—	—
6月末	10,316	3.2	310,898.0918	2.6	0.1	92.4
7月末	11,086	10.9	327,934.2055	8.2	0.2	95.1
8月末	11,052	10.5	330,608.3461	9.1	0.1	95.9
9月末	11,847	18.5	344,059.8934	13.6	0.1	96.3
10月末	12,667	26.7	365,357.2310	20.6	0.1	97.7
(期 末)						
2025年11月10日	12,125	21.3	360,034.4196	18.8	0.1	98.1

(注) 騰落率は設定日比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2025年6月9日～2025年11月10日)



設定日：10,000円

期 末：12,125円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率： 21.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス (配当込み) [円換算後] です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、設定日(2025年6月9日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。(以下同じ。)

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・個別銘柄では、米国のアップラビンやエヌビディア、日本のアドバンテストなどの株価が上昇したことが、主なプラス要因となりました。
- ・為替市場において、米ドルなどが対円で上昇したことが、主なプラス要因となりました。

(主なマイナス要因)

・個別銘柄では、米国のネットフリックスやアクソン・エンタープライズ、プロセプト・パイオロボティクスなどの株価が下落したことが、主なマイナス要因となりました。

投資環境

(2025年6月9日～2025年11月10日)

グローバル株式市場は、A I インフラ投資や米国の利下げに支えられて、堅調に推移しました。その背景には、大手A I プラットフォーマーによる大型のA I インフラ投資や米国の利下げが主な要因として挙げられます。大手A I プラットフォーマーの2025年の予想設備投資額は、年初の前年比20%増から10月には同70%増に上昇しました。また、次世代A I の活用が加速しており、グーグルは2025年9月に月間1,300兆トークン（トークン：A I が文章を処理するための最小単位のこと）を処理しました。これは、2024年8月の25兆トークンの50倍を超える水準となります。これらは次世代A I 利用シーンが企業・個人の双方で急激に広がり、推論向け需要が急激に高まっていることを意味します。中国株は、2025年8月に景気刺激策を受けて10年ぶりの高値に上昇した後、貿易を巡る根強い先行き不透明感から下落に転じました。

国内短期金融市場では、2025年7月に参院選で与党が過半数を割り込んだことや、日米関税交渉が合意に至ったことを受け、1年国債利回りは上昇しました。9月中旬以降は日銀の早期利上げが意識され一段と上昇する場面もありましたが、10月会合の利上げ見送り観測を受けて上昇幅は縮小しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2025年6月9日～2025年11月10日)

<次世代AI株式戦略ファンド>

「アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」、「マネー・リクイディティ・マザーファンド」を主要投資対象とし、「アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」を高位に組み入れて運用を行いました。

○アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

「アクサ IM 次世代AI関連株式マザーファンド」（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券に投資し、為替ヘッジは行いませんでした。マザーファンドでは、A I 関連需要の動向や企業の事業進捗を踏まえ、次世代A I インフラ企業および次世代A I イノベーター企業の双方で選別的な銘柄入れ替えを行いました。

次世代A I インフラ企業では、市場の予想を上回るA I インフラ向けの投資が予定されています。当戦略では、オラクル（米国のクラウド・サービス企業）、SKハイニクス（韓国の半導体メーカー）、クレド・テクノロジー（米国のクラウド・サービス企業）およびアステラ・ラブズ（米国のデータセンター開発企業）などの次世代A I インフラ企業の投資を増やしました。

次世代A I イノベーター企業については、次世代A I サービスの収益化の点で結果が別れました。当戦略では、ロブックス（米国のオンラインゲーム・プラットフォーム）、ロビンフッド・マーケット（米国のネット証券）など、次世代A I サービスをうまく展開している企業がパフォーマンスにプラス寄与しました。一方で、セールスフォース（米国の顧客管理プラットフォーム）、レックス（英国の専門分野の情報データプロバイダー）、コンフルエント（米国のソフトウェア・プラットフォーム）などのあまり成功していない企業を売却しました。

○マネー・リクイディティ・マザーファンド

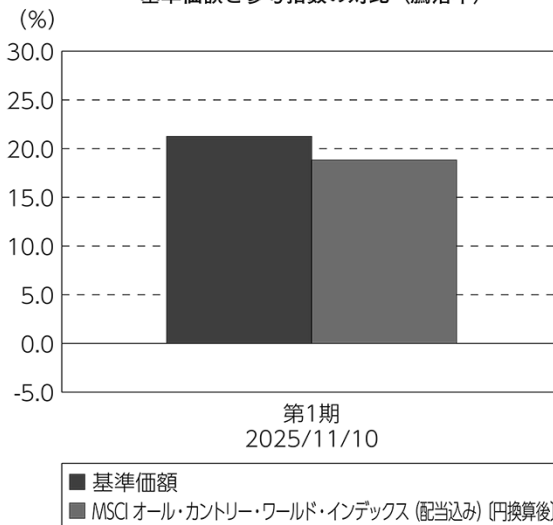
わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とした運用を行いました。当期間中は、国債および政府保証債を組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2025年6月9日～2025年11月10日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み）〔円換算後〕です。

分配金

(2025年6月9日～2025年11月10日)

当期の分配金につきましては、分配方針に則り、基準価額水準等を勘案し、以下のとおりいたしました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第 1 期
	2025年6月9日～ 2025年11月10日
当期分配金 (対基準価額比率)	— — %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,124

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（投資環境の見通し）

グローバル株式市場は、A I 技術の革新とあらゆる分野への普及が牽引し、堅調に推移すると予想します。各企業の次世代A I 向け投資は、企業やユーザーの利用者数（アクティブ・ユーザー数）が増加していることから、A I インフラ向け投資の正当性が認められ始めています。つまり、次世代A I 向けの投資サイクルはより健全な段階に入ったといえます。例えば、オープンA I の「C h a t G P T」の週間アクティブ・ユーザー数は8億人を超えました。また、企業向けのクラウド・サービスも同様に利用件数が堅調に伸びています。短期的な材料としては、エヌビディアの「ブラックウェル・ウルトラ（次世代G P U）」増産や、企業のA I 導入の増加、米国による相互関税の解決の可能性などが挙げられます。さらにK P M G社のC E O 調査では経営者の約9割が「3年以内にA I 投資のリターンを実現できる」と回答しており、企業によるA I 活用の加速が確認されています。これらの要因がA I 関連株の支援材料になると考えられます。

国内短期金融市場は、日銀による追加利上げ観測が残ることから、1年国債利回りに上昇圧力が掛かる展開を想定しています。

＜次世代AI株式戦略ファンド＞

「アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」を高位に組み入れて運用を行います。

○アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

「アクサ IM 次世代AI関連株式マザーファンド」（以下、「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、日本を含む世界各国の取引所に上場している次世代A I 関連企業の株式に投資を行います。マザーファンドについては、引き続き、徹底したボトムアップ・リサーチを通じて、次世代A I を通じた構造的な成長が期待される企業を選別し、アクティブかつ柔軟な運用を行ってまいります。また、マクロ環境の変動に注意を払いながら、質の高い企業への選別を通じた中長期的な成長を目指してまいります。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わない方針です。

○マネー・リクイディティ・マザーファンド

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年 6 月 9 日～2025年11月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 63	% 0.549	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(19)	(0.163)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.374)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.012)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.005	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	64	0.554	
期中の平均基準価額は、11,393円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

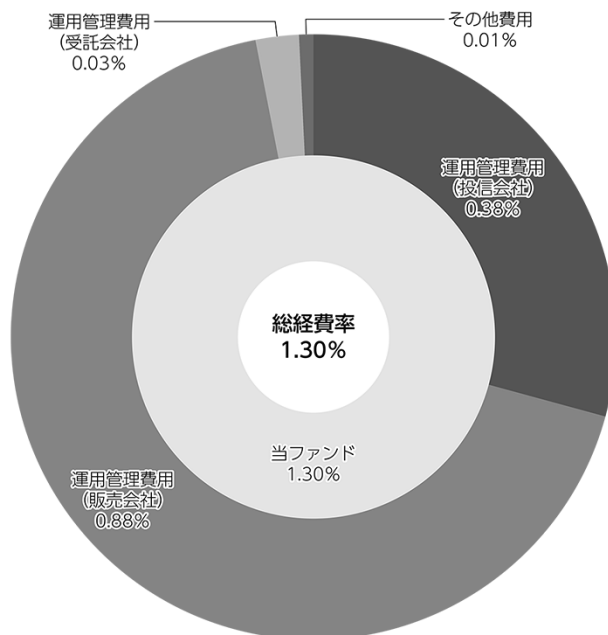
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.30%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.30
①当ファンドの費用の比率	1.30
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	—

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの比率は、当運用報告書作成時点において、開示できる情報はありません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年6月9日～2025年11月10日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）	45,116,607,152	千円 49,803,000	口 —	千円 —

(注) 金額は受渡代金。
(注) 単位未満は切捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
マネー・リクイディティ・マザーファンド		千口 104,779	千円 105,000	千口 —	千円 —

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2025年6月9日～2025年11月10日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年11月10日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄		当期末		
		口数	評価額	比率
アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）		口 45,116,607,152	千円 55,574,636	% 98.1
合 計		45,116,607,152	55,574,636	98.1

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

親投資信託残高

銘柄		当期末	
		口数	評価額
マネー・リクイディティ・マザーファンド		千口 104,779	千円 105,114

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2025年11月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	55,574,636	97.7
マナー・リクイディティ・マザーファンド	105,114	0.2
コール・ローン等、その他	1,184,297	2.1
投資信託財産総額	56,864,047	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年11月10日現在)

○損益の状況 (2025年6月9日～2025年11月10日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	56,864,047,227
コール・ローン等	1,184,281,801
投資信託受益証券(評価額)	55,574,636,689
マナー・リクイディティ・マザーファンド(評価額)	105,114,898
未収利息	13,839
(B) 負債	201,230,166
未払解約金	25,936,942
未払信託報酬	173,521,142
その他未払費用	1,772,082
(C) 純資産総額(A－B)	56,662,817,061
元本	46,733,653,173
次期繰越損益金	9,929,163,888
(D) 受益権総口数	46,733,653,173口
1万口当たり基準価額(C／D)	12,125円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1.2125円です。

(注) 当ファンドの当初設定元本額は7,702,027,738円、期中追加設定元本額は39,854,194,559円、期中一部解約元本額は822,569,124円です。

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,115,509
受取利息	2,115,509
(B) 有価証券売買損益	5,659,131,641
売買益	5,771,825,251
売買損	△ 112,693,610
(C) 信託報酬等	△ 175,293,224
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	5,485,953,926
(E) 追加信託差損益金	4,443,209,962
(売買損益相当額)	(4,443,209,962)
(F) 計(D＋E)	9,929,163,888
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F＋G)	9,929,163,888
追加信託差損益金	4,443,209,962
(配当等相当額)	(12,690)
(売買損益相当額)	(4,443,197,272)
分配準備積立金	5,485,953,926

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第1期
(a) 配当等収益(費用控除後)	2,159,963円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	5,483,793,963円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	4,443,209,962円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	－円
分配対象収益(a＋b＋c＋d)	9,929,163,888円
分配対象収益(1万口当たり)	2,124円
分配金額	0円
分配金額(1万口当たり)	0円

＜お知らせ＞

該当事項はございません。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

（2025年11月10日現在）

＜マネー・リクイディティ・マザーファンド＞

下記は、マネー・リクイディティ・マザーファンド全体(438,294千口)の内容です。

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちＢＢ格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	200,000	199,844	45.5	—	—	—	45.5
	(200,000)	(199,844)	(45.5)	(—)	(—)	(—)	(45.5)
特殊債券 (除く金融債)	60,000	59,996	13.6	—	—	—	13.6
	(60,000)	(59,996)	(13.6)	(—)	(—)	(—)	(13.6)
合 計	260,000	259,840	59.1	—	—	—	59.1
	(260,000)	(259,840)	(59.1)	(—)	(—)	(—)	(59.1)

(注) ()内は非上場債券で内書きです。

(注) 組入比率は、当ファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	%	千円	千円	
第1270回国庫短期証券	—	30,000	29,996	2025/11/20
第1333回国庫短期証券	—	40,000	39,978	2025/12/22
第1335回国庫短期証券	—	45,000	44,960	2026/ 1 /13
第1339回国庫短期証券	—	45,000	44,955	2026/ 1 /26
第1341回国庫短期証券	—	40,000	39,953	2026/ 2 / 9
小 計		200,000	199,844	
特殊債券(除く金融債)				
第261回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.381	40,000	39,999	2025/11/28
第79回政府保証地方公共団体金融機構債券	0.379	20,000	19,996	2025/12/12
小 計		60,000	59,996	
合 計		260,000	259,840	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

＜アクサ IM 次世代AI関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）＞

当運用報告書作成時点において、決算を迎えていないため、開示できる情報はございません。

マネー・リクイディティ・マザーファンド
第15期 運用状況のご報告
決算日：2025年7月17日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として安定運用を行います。
主要投資対象	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式および外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率	債組入比率	債券先物比率	純資産総額
11期(2021年7月19日)	円 10,004	% △0.1	% 98.5	% —	百万円 142
12期(2022年7月19日)	9,998	△0.1	80.0	—	329
13期(2023年7月18日)	9,992	△0.1	87.8	—	254
14期(2024年7月17日)	9,990	△0.0	81.9	—	303
15期(2025年7月17日)	10,018	0.3	65.1	—	353

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

(注) 債券先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

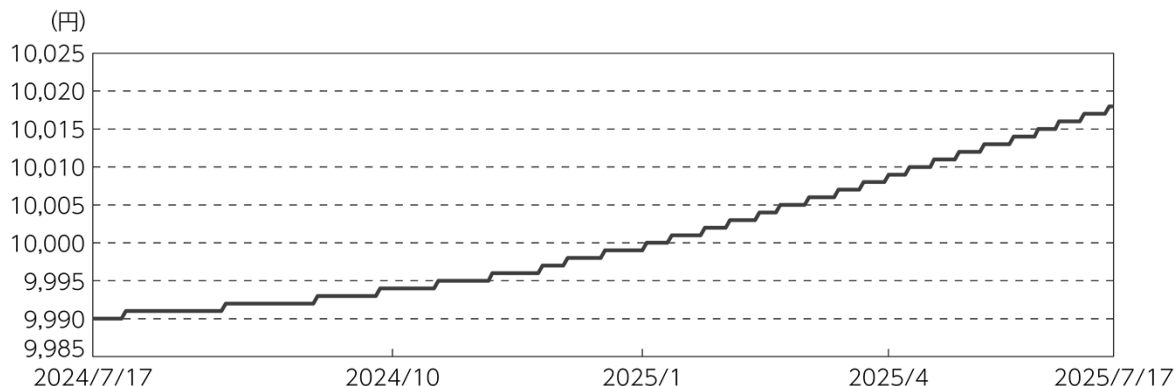
年月日	基準価額	騰落率	債組入比率	債券先物比率
(期首) 2024年7月17日	円 9,990	% —	% 81.9	% —
7月末	9,991	0.0	69.3	—
8月末	9,991	0.0	86.0	—
9月末	9,992	0.0	78.1	—
10月末	9,994	0.0	75.0	—
11月末	9,995	0.1	74.4	—
12月末	9,997	0.1	80.9	—
2025年1月末	9,999	0.1	85.1	—
2月末	10,002	0.1	88.8	—
3月末	10,005	0.2	94.5	—
4月末	10,009	0.2	84.4	—
5月末	10,012	0.2	66.0	—
6月末	10,016	0.3	61.3	—
(期末) 2025年7月17日	10,018	0.3	65.1	—

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2024年7月18日～2025年7月17日)



○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・保有債券の利息収入を獲得したことがプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・特にありません。

投資環境

(2024年7月18日～2025年7月17日)

国内短期金融市場では、2024年7月の日銀による利上げと、その後も早期追加利上げへの観測が強まるなか、2025年1月には実際に追加利上げが実施されたことなどを受けて、1年国債利回りは3月にかけて大きく上昇（価格は下落）しました。その後、4月上旬のトランプ米政権による相互関税の発動などを背景に、利回りは一時的に上昇幅を縮小する場面も見られました。しかし、7月の参議院選挙で与党が過半数を割り込むとの見方が強まったことを背景に財政拡大リスクが意識されたことなどから、1年国債利回りは再び上昇基調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2024年7月18日～2025年7月17日)

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とした運用を行いました。当期間中は、国債および政府保証債を組み入れました。

今後の運用方針

(投資環境の見通し)

国内短期金融市場は、日銀による追加利上げ観測が残ることから、1年国債利回りには上昇圧力が掛かる展開を想定しています。

(運用方針)

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年7月18日～2025年7月17日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2024年7月18日～2025年7月17日)

公社債

		買付額	売付額
国	国債証券	千円 64,944	千円 — (25,000)
	内 特殊債券	390,183	— (448,000)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) 単位未満は切捨て。

(注) () 内は償還等による増減分です。

○利害関係人との取引状況等

(2024年7月18日～2025年7月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年7月17日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円	千円	%	%	%	%	%
	65,000	64,960	18.4	—	—	—	18.4
	(65,000)	(64,960)	(18.4)	(—)	(—)	(—)	(18.4)
特殊債券 (除く金融債)	165,000	164,962	46.7	—	—	—	46.7
	(165,000)	(164,962)	(46.7)	(—)	(—)	(—)	(46.7)
合 計	230,000	229,923	65.1	—	—	—	65.1
	(230,000)	(229,923)	(65.1)	(—)	(—)	(—)	(65.1)

(注) ()内は非上場債券で内書きです。
(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。
(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	%	千円	千円	
第1303回国庫短期証券	—	30,000	29,994	2025/8/4
第1316回国庫短期証券	—	35,000	34,966	2025/10/6
小 計		65,000	64,960	
特殊債券(除く金融債)				
第254回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.44	35,000	34,999	2025/8/29
第256回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.425	40,000	39,991	2025/9/30
第258回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.386	30,000	29,987	2025/10/31
第261回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.381	40,000	39,998	2025/11/28
第79回政府保証地方公共団体金融機構債券	0.379	20,000	19,985	2025/12/12
小 計		165,000	164,962	
合 計		230,000	229,923	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2025年7月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	229,923	65.1
コール・ローン等、その他	123,079	34.9
投資信託財産総額	353,002	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2025年7月17日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	353,002,992
コール・ローン等	122,961,957
公社債（評価額）	229,923,267
未収利息	117,768
(B) 負債	0
(C) 純資産総額（A－B）	353,002,992
元本	352,380,206
次期繰越損益金	622,786
(D) 受益権総口数	352,380,206口
1万口当たり基準価額（C／D）	10,018円

- (注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1.0018円です。
(注) 当ファンドの期首元本額は303,322,059円、期中追加設定元本額は112,337,226円、期中一部解約元本額は63,279,079円です。
(注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。
米国ネクストビジョンファンド（為替ヘッジなし）

シン・インド割安成長株ファンド	114,133,661円
次世代A I 株式戦略ファンド	88,412,373円
欧州ハイ・イールド債券オープン（毎月決算型）ユーロコース	32,953,168円
アジア半導体関連フォーカスファンド（愛称 ライジング・セミコン・アジア）	32,283,933円
オール・カンントリー好配当リバランスオープン（年4回決算型）	28,515,722円
米国ネクストビジョンファンド（為替ヘッジあり）	22,880,326円
高成長ASEAN小型株式ファンド	9,078,223円
オール・カンントリー好配当リバランスオープン（資産成長型）	8,744,652円
欧州ハイ・イールド債券オープン（毎月決算型）円コース	5,927,094円
欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース	5,686,993円
欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）円コース	2,762,654円
欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）円コース	1,001,407円

○損益の状況（2024年7月18日～2025年7月17日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,353,528
受取利息	1,353,528
(B) 有価証券売買損益	△ 426,445
売買益	55,771
売買損	△ 482,216
(C) 当期損益金（A＋B）	927,083
(D) 前期繰越損益金	△ 292,049
(E) 追加信託差損益金	12,724
(F) 解約差損益金	△ 24,972
(G) 計（C＋D＋E＋F）	622,786
次期繰越損益金（G）	622,786

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

＜お知らせ＞

・投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款の記載変更を行いました。（実施日：2025年4月1日）